

## 3.9.2 研究推進部門 知財推進グループ

グループリーダー 萩本 猛 ほか10名

### 高価値・高独創性を有する NICT 発技術の知的財産権化とその技術移転を推進

#### 【概要】

NICT の研究成果の特許権化を図るとともに、その管理及び技術移転を行うため、以下の業務を行っている。

- (1) 専門家の目利きによる発明の発掘、特許相談室の開設により、研究者の研究成果の特許化を支援
- (2) 弁理士等専門家を活用し、効率的な特許出願・管理を実施
- (3) 専門家・技術移転機関の活用や展示会、Web サイト等による特許情報の公開を通じて、技術移転活動を展開
- (4) 役職員を対象とした特許講演会・研修を実施

#### 【平成 22 年度の成果】

##### (1) 大型技術移転案件成立「コグニティブ無線」

新世代ワイヤレス研究センターで研究されてきた「コグニティブ無線技術（ヘテロジニアス型）」は、技術移転案件として MVNO から飲食店チェーンといった末端ユーザまで複数の契約が締結され、この関係による知財収入は今年度だけでも 3 千万円に達する大型移転案件となり、今後更に知財収入が期待できるものである。また、この収入を含めた年間の知財収入は、過去最高の 4,600 万円を超えた。

##### (2) 電子化辞書のバージョンアップ及び日中辞書を追加

これまで維持・改修・提供してきた EDR 電子化辞書全体について最後の改修を行い Ver4.0 としてリリースした。また、これと併せて EDR 電子化辞書に対応した、日本語と中国語の対訳辞書を新たに追加したことにより、既存ユーザのみならず、新規ユーザを獲得することができた。その他、話し言葉コーパスや数値人体モデルといった著作権収入の増加が知財収入に貢献した。

##### (3) 知財の質の向上に向けた「知財規程改定」

技術移転につながる一定レベル以上の知財を確保するため、これまで職務発明と認定されると必ず特許を受ける権利を承継してきたが、発明が生じた時点で NICT として特許出願するか否かの判断をし、その結果特許出願する場合のみ、特許を受ける権利の譲渡を受ける承継判断の追加や、技術移転の可能性が無くなった特許権について、権利放棄促進のため発明者に無償で譲渡出来るよう、知的財産取扱規程を改定した。これにより、来年度以降の知財実施率の改善が見込まれる。

<研究成果の商品・実用化例>

コグニティブ無線ルータ



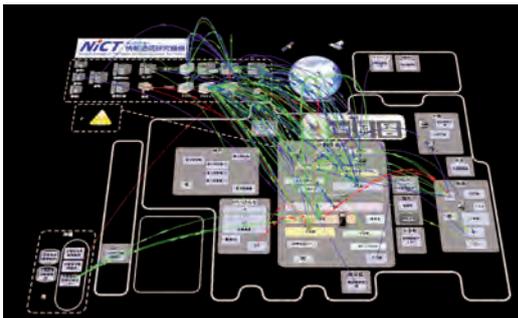
無線機自身が、周囲の電波の利用状況を認識し、その状況により最適な無線通信システムを選択して伝送する、コグニティブ無線技術が盛り込まれたルータが商品化された。無線 LAN、3G、PHS 等複数の通信可能な回線の中から、その回線の利用状況より最適な回線を自動で選択し接続することで、高い信頼性を確保することができる。

EDR 電子化辞書 Ver.4 と日中辞書



これまで維持・改修・提供してきた EDR 電子化辞書全体について最後の改修を 3 年ぶりに行い Ver4.0 としてリリースした。また、EDR 電子化辞書と同様の形式に対応した、23 万語の規模を持つ日本語と中国語の対訳辞書を新たに追加した。Ver4.0 の主な改版内容は、未収録語の追加、概念説明の修正、概念-単語間の関係を見直し、適切な位置に修正、下位ノードの多い概念について、下位ノードの再配置を行った。概念辞書の修正に伴い、副次的に他辞書も変更されており、形式は日英対訳辞書とほぼ同形式となっている。これに併せてその他の EDR 電子化辞書も改版した。

ネットワークトラフィックリアルタイムモニタ



ネットワークから収集したパケットトラフィック情報をネットワークトポロジ図上の 3 次元動画表示することで、ネットワークを流れるパケットの動きや量をリアルタイムで把握できる。これにより、ネットワークの故障等原因の早期究明やシステムの改善計画を立てることができる。

空間光通信装置



光ファイバによる高速回線が各家庭に普及してきている。光ファイバも電力線のように末端まで線を敷設しなければならないが、この装置は、その一部分を電波のように空間を通じて伝えることができる。しかも、光ファイバの持つ高速性能はそのまま維持できるため、TV 報道等の臨時的回線を簡単に敷設できる効果がある。